

令和 3 年 度

明石市水道事業下半期の業務状況の報告

明石市水道局

目 次

- 1 まえがき
- 2 令和3年度下半期の事業の概要
- 3 令和4年度予算の概要及び事業の経営方針
- 4 むすび

1 まえがき

地方公営企業法第40条の2第1項の規定により、令和3年度下半期の明石市水道事業の概要及び令和4年度予算の概要と事業の経営方針について報告いたします。

2 令和3年度下半期の事業の概要

令和3年度下半期は、前年度同期と比べて給水人口で4,486人、給水戸数で1,374戸、それぞれ増加となっており、年度末では、給水人口は304,088人、給水戸数は145,095戸となっております。

このような状況のもと、当期の有収水量は15,707千 m^3 となり、前年度下半期と比較して108千 m^3 減少となりました。この結果、上半期・下半期とも減少したため、年間有収水量は1.3%減少の31,370千 m^3 となり、有収率は96.5%と前年度に比べ1.2%の減少となっております。

次に下半期の経営状況は事業収益2,989,309千円に対し、事業費用3,632,933千円となり、差引643,624千円の当期純損失となりました。

まず、事業収益では、前年度下半期に比べ、営業外収益が130,236千円減少したものの、営業収益において給水収益が340,916千円増加したため営業収益全体では298,389千円増加、収益全体では168,423千円（6.0%）の増加となっております。

一方、事業費用では、前年度下半期に比べ受託工事費、原水及び浄水費等が減少したものの、配水及び給水費、業務費等が増加したため、104,910千円（2.8%）の減少となりました。これにより、上半期の純利益1,276,313千円を加えた令和3年度全体では、632,689千円の純利益となりました。

なお、消費税法及び地方税法による消費税及び地方消費税に係る収益的収支の年間仮受払消費税及び地方消費税額は、事業収益では仮受消費税及び地方消費税額538,570千円、事業費用では仮払消費税及び地方消費税額307,694千円であります。

建設改良費では、年間で第3次整備事業として176,407千円をもって中部配

水場受電設備更新工事を実施したほか、浄配水施設及び管路の整備・拡張などを行いました。また、老朽管整備事業として637,576千円をもって、老朽化した配水管を更新計画に基づき、優先度の高い管路や地区から順次布設替し、建設改良事業として410,452千円をもって、魚住浄水場配水塔外壁ほか改修工事を実施したほか、浄配水施設及び管路の改修などを行い、これらに事務費等73,509千円及び企業債償還金712,741千円を加えて総額2,010,685千円（うち仮払消費税及び地方消費税110,967千円）を執行しております。これらの財源には、企業債345,700千円、工事負担金6,656千円及びその他の収入金35,511千円を加え、387,867千円（うち仮受消費税及び地方消費税910千円）を充てましたが、不足額の1,622,818千円は、減債積立金処分量80,000千円、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額110,057千円、過年度分損益勘定留保資金1,432,761千円で全額補てんしております。

本年度は、当年度純利益として632,689千円を計上し、中期経営計画における収益的収支見通しを上回る水準となりました。

今後については、減収傾向が続くと考えられ、当市の水道事業を取り巻く経営環境は、厳しい状況下にあります。次年度以降においても、水道法の趣旨を踏まえつつ、明石市水道事業経営戦略及び中期経営計画に基づく経費の節減及び経営の合理化などの取組をさらに推進し、経営の健全性確保及び経営の基盤強化に努めるとともに、「安全・安心・安定」かつおいしい水の供給と水道利用者サービスの向上に万全を尽くしてまいります。

令和2年度－令和3年度下半期実績比較

区 分	令和2年度 下半期	令和3年度 下半期	比 較
給 水 人 口	299,602 人	304,088 人	4,486 人
給 水 戸 数	143,721 戸	145,095 戸	1,374 戸
普 及 率	99.993 %	99.993 %	0 %
配 水 量	16,399 千m ³	16,544 千m ³	145 千m ³
有 収 水 量	15,815 千m ³	15,707 千m ³	△108 千m ³
下半期増加給水人口	△140 人	49 人	189 人
下半期増加給水戸数	271 戸	460 戸	189 戸

令和3年度下半期損益計算書

(令和3年10月1日から令和4年3月31日まで)

(税抜き 単位：円)

費用の部		収益の部	
水道事業費用	3,632,933,034	水道事業収益	2,989,308,803
営業費用	3,565,437,040	営業収益	2,371,645,364
原水及び浄水費	1,199,102,135	給水収益	2,281,353,539
配水及び給水費	430,741,335	受託工事収益	3,308,822
受託工事費	5,156,311	その他営業収益	86,983,003
業務費	146,765,853	営業外収益	617,298,902
総係費	110,915,268	受取利息	421,811
減価償却費	1,632,567,852	他会計補助金	44,680,322
資産減耗費	40,188,286	長期前受金戻入	461,120,193
その他営業費用	0	雑収益	111,076,576
営業外費用	67,630,819	特別利益	364,537
支払利息及び 企業債取扱諸費	67,277,456	固定資産売却益	334,408
雑支出	353,363	過年度損益修正益	30,129
特別損失	-134,825	その他特別利益	0
固定資産売却損	0	当期純損失	643,624,231
過年度損益修正損	-134,825		
固定資産除却損	0		
その他特別損失	0		
計	3,632,933,034	計	3,632,933,034

令和3年度貸借対照表

(令和4年3月31日)

(税抜き 単位：円)

資 産 の 部		負 債 ・ 資 本 の 部	
固 定 資 産	33,564,736,659	固 定 負 債	7,092,292,481
有形固定資産	30,700,734,949	企 業 債	5,939,550,829
土 地	2,956,972,387	引 当 金	1,152,741,652
建 物	702,762,984	その他固定負債	0
構 築 物	23,561,750,372	流 動 負 債	1,516,810,454
機 械 及 び 装 置	3,456,397,075	企 業 債	712,468,925
車 両 運 搬 具	2,119,967	未 払 金	725,739,182
工具器具及び備品	20,732,164	前 受 金	12,402,381
建 設 仮 勘 定	0	引 当 金	35,557,515
無形固定資産	97,763,270	その他流動負債	30,642,451
施 設 利 用 権	97,763,270	繰 延 収 益	5,893,774,154
投資その他の資産	2,766,238,440	長 期 前 受 金	5,893,774,154
投 資 有 価 証 券	0	資 本 金	18,361,704,014
出 資 金	3,000,000	資 本 金	18,361,704,014
そ の 他 投 資	2,763,238,440	剰 余 金	5,365,971,920
流 動 資 産	4,665,816,364	資 本 剰 余 金	1,496,288,100
現 金・預 金	3,583,799,329	利 益 剰 余 金	3,869,683,820
未 収 金	596,219,713		
有 価 証 券	0		
貯 蔵 品	35,074,054		
前 払 費 用	0		
前 払 金	450,523,268		
その他流動資産	200,000		
計	38,230,553,023	計	38,230,553,023

3 令和4年度予算の概要及び事業の経営方針

令和4年度水道事業会計の予算につきましては、明石市水道事業経営戦略(平成29年度～令和8年度)に沿って編成しており、給水戸数の増加を見込んでいるものの、節水意識の高まりなどにより、使用水量については横ばいを想定しております。

今年度の業務の予定量は、給水戸数 145,200 戸、年間総配水量 32,080 千 m^3 、1日平均配水量 87,890 m^3 、1日最大配水量 99,500 m^3 、年間有収水量 31,280 千 m^3 を計画しております。

収益的収支につきましては、事業収益の大部分を占める給水収益で 5,600,000 千円が見込まれ、営業収益全体では 5,847,384 千円を予定しております。これに、受取利息・施設分担金・長期前受金戻入等の営業外収益 733,472 千円、特別利益 1,010 千円を加えた事業収益総額では 6,581,866 千円(対前年度比 0.4%増)を予定しております。事業費用では、営業費用が 5,948,529 千円に、企業債利息等の営業外費用 284,000 千円、特別損失 7,400 千円、予備費 10,000 千円を加えた事業費用総額 6,249,929 千円(同 1.0%増)を予定し、差引 331,937 千円となります。

次に資本的収支では、魚住浄水場設備更新工事(5年総額 5,770,000 千円の1年目)等の第3次整備事業費に 1,563,411 千円、市内一円の老朽管整備事業費に 719,500 千円、その他建設改良事業費等に 639,055 千円を投入し、企業債償還金 713,000 千円及び予備費 5,000 千円を合わせて、3,639,966 千円(同 43.8%増)の資本的支出を計上しております。

これらの財源には、企業債 1,550,100 千円を含む 1,613,247 千円(同 78.4%増)の資本的収入を予定しておりますが、なお 2,026,719 千円の不足が見込まれるため、建設改良積立金処分量 352,000 千円、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額 253,597 千円、減価償却等費等の過年度分損益勘定留保資金 1,421,122 千円で補てんする予定です。

以上のように、収益的収支につき黒字予算を計上しておりますが、営業収支に限っていうと赤字予算となっており、今後も長期的には給水人口が逡減する

ことによる全体的な使用水量の減少なども予測されるため、より厳しい状況が続くと見込まれます。

また、明石川河川水からの水源転換や、水道施設の再整備、老朽管路の更新等には多額の経費が見込まれ、これらの財源としては、主に内部留保資金を充てることを予定していますが、現状では十分な内部留保資金があるとは言えず、施設更新等の財源見通しは厳しい状況です。

令和4年度においても引き続き明石市水道事業経営戦略及び令和3年3月に策定した中期経営計画(令和3年度～令和8年度)を着実に履行するとともに、さらなる経営努力を重ね、市民生活に欠くことのできないライフラインとしての水の安全かつ安定した供給に最大限の努力を尽くす所存です。

4 むすび

令和3年10月1日から令和4年3月31日までの令和3年度下半期における明石市水道事業の概要と令和4年度予算の概要及び事業の経営方針を上記のとおり報告いたします。